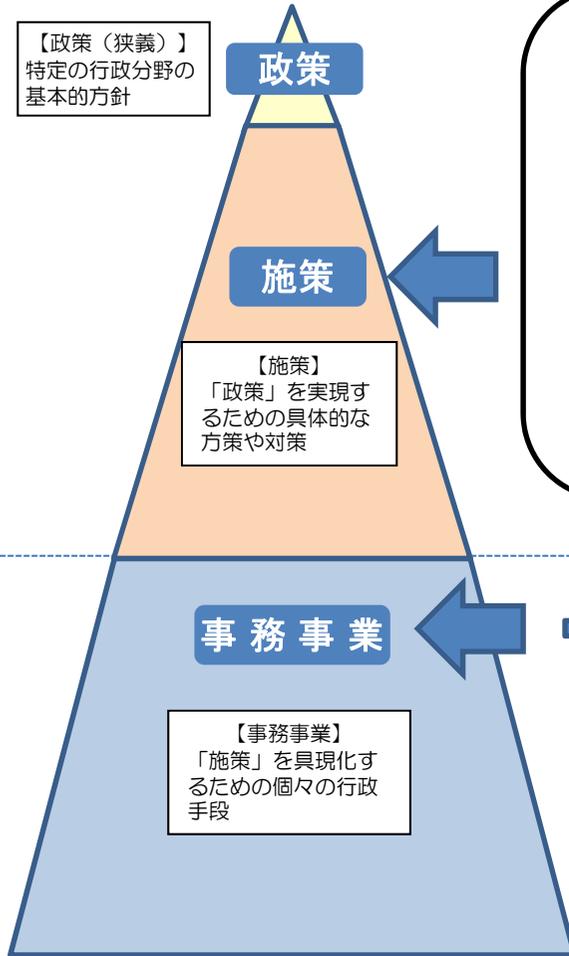


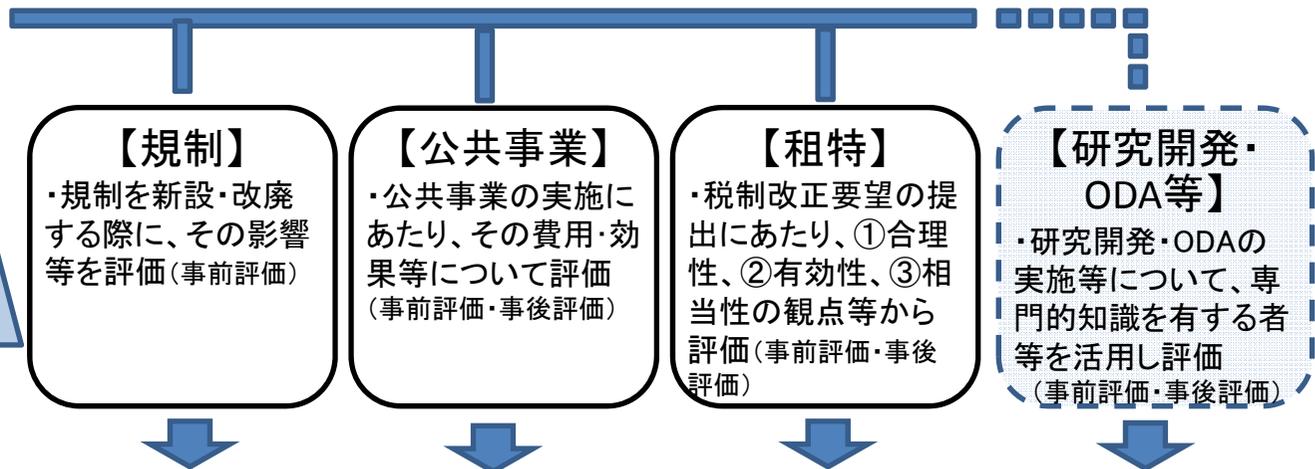
政策評価の概要

各府省の政策体系



【目標管理型】

- 主要な政策について、あらかじめ目標を設定（事前分析表を作成）し、その達成度を測定して評価する形式の政策評価（主に実績評価）
※ 政府全体で約500施策について事前分析表が作成され、平成26年度においては、約300施策について評価を実施。
- 各府省はガイドライン等を踏まえ、評価を実施
※ ガイドラインの策定にあたっては、前委員会（政独委）でも審議
- 平成26年度からは、標準化（各府省共通の5区分により、施策の進捗状況を明示）・重点化（時期の重点化と内容深掘り）の取組を実施中
- 行政事業レビューとの連携の取組（評価書と行政事業レビューシートの紐付け、実施プロセスの相互連携）も実施中



事業の効果等について、費用便益分析、費用効果分析等を用いて分析を行い、より効果的、効率的な事業の実施に活かす。

政策評価に関する審議事項(案)

現在の政策評価の課題

● 政策の改善・見直しへの一層の活用

【評価そのものの問題】

- ・分析の質の問題 ⇒ 定量化が不十分
- ・評価の基本となる目標・測定指標の設定の問題 ⇒ 施策の効果の把握が不十分

【意思決定プロセスとの関係の問題】

- ・評価結果がまとまるタイミングと企画立案のタイミングのズレ
⇒ 評価書を作るだけが評価ではなく、常に評価の視点を持つことが必要
- ・意思決定が外的要因に左右され、評価結果に基づくマネジメントの実施が困難なケースも
⇒ 施策の正当性を説明するツールとして、評価が活用されることが必要

● 各省担当者の作業負担の軽減

- ・評価が政策の改善・見直しに十分活かされず、評価自体が目的化
- ・企画立案業務を行いつつの評価書の作成となり、詳細な分析を行う余裕がない
⇒ 評価対象の重点化についても検討が必要



当面取り組むべき事項

【目標管理型の政策評価】

- 目標及び測定指標の適切な設定方法についての検討
- 評価時期、内容の重点化に加えて、評価対象の重点化について検討

【規制に係る政策評価】

- 評価の分かりやすさの向上に向け、定量化方策の検討(個別事例を中心に)
- 事後的な規制の検証(規制改革会議のレビュー等)を視野に入れた評価の在り方の検討